

船舶事故調査報告書

令和4年8月31日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | |
|-------------|--|
| 事故種類 | 乗揚 |
| 発生日時 | 令和4年1月26日 10時00分ごろ |
| 発生場所 | 青森県風間浦村 ^{いこくま} 易国間漁港東南東方沖 易国間港東防波堤灯台から真方位116°1,100m付近 (概位 北緯41°29.1′ 東経141°00.6′) |
| 事故の概要 | 漁船さき丸は、漂流中、岩場に乗り揚げた。 |
| 事故調査の経過 | 令和4年2月1日、主管調査官（仙台事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済 |
| 事実情報 | |
| 船種船名、総トン数 | 漁船 さき丸、0.4トン |
| 船舶番号、船舶所有者等 | AM3-32471（漁船登録番号）、個人所有 |
| 乗組員等に関する情報 | 船長、二級小型・特殊・特定 |
| 負傷者 | なし |
| 損傷 | 船底部に亀裂等 |
| 気象・海象 | 気象：天気 曇り、風向 北西、風力 1、視界 良好 海象：波向 北、波高 約1.5m、潮汐 下げ潮の初期 |
| 事故の経過 | <p>本船は、和船型の船外機船で、船長が1人で乗り組み、あわび漁の目的で易国間漁港を出港し、岩場の漁場に到着した後、船首を南方に向けた状態で漂流した。</p> <p>本船は、船長が箱眼鏡で海中を見ながらあわび漁を行っていた際、船尾方が持ち上がったので振り返って見たところ、波高約1.5mの磯波を受け、岩場に押し寄せられて乗り揚げた。</p> <p>船長は、本事故発生場所付近が磯波の発生しやすい海域であることを知っていたので、操業に夢中になることなく、もう少しこまめに海面の状況及び本船の位置を確認しておけば良かったと本事故後に思った。</p> |
| 分析 | 本船は、漂流中、船長が磯波の発生しやすい海域であることを知っていたものの、操業に夢中になっていたことから、船尾方の磯波に気付かず、岩場に押し寄せられて乗り揚げたものと考えられる。 |
| 原因 | 本事故は、本船が漂流中、船長が磯波の発生しやすい海域であることを知っていたものの、操業に夢中になっていたため、船尾方の磯波に気付かず、岩場に押し寄せられて乗り揚げたものと考えられる。 |
| 再発防止策 | <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船長は、岩場の漁場などでは高い磯波が発生する可能性があるため、操業中であっても随時海象状況を確認するとともにその変化に十分注意すること。 |